

〈芸術〉



音楽科



图画工作科

美術科



家庭科

技術・家庭科



芸術系教科実践事例集

1 芸術系教科における深い学び

【音楽科】

音や音楽と出会う場面を大切にし、主体的・協働的に学習に取り組み、表現したり、他者と共有共感したりする学び

【図画工作科／美術科】

主体的に学ぶ意欲を高め、表現の能力と鑑賞の能力を、相互に関連して働くようとする学び

【家庭科／技術・家庭科】

生活の中から問題を見出して、課題の解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したり、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を身に付ける学び

2 「深い学び」を目指すためのポイント

① 子供が思考できる教科の教材化、発問

基礎的・基本的な知識を着実に習得しながら、既存の知識と関連付けたり組み合わせたりしていくことにより、学習内容の深い理解と、個別の知識の定着を図るとともに、社会におけるさまざまな場面で活用できる概念としていくことが大切である。

また、それには「本質的な問い合わせ」の設定が重要である。一問一答で答えられるものではなく、題材全体に関わる「概念的な問い合わせ」や、教科の「見方・考え方」を働かせた教科の本質に関わる「問い合わせ」により、子供たちが「素朴な理解」から、教科の本質に関わる「洗練された理解」に到達したとすれば、それは「深い学び」の実現だといえる。

② 目指す児童・生徒の姿

- ・表現に必要な技能を身に付けている児童・生徒
- ・人やものと関わりながら、自分らしく創意工夫して表現する児童・生徒

3 深い学びを実現するための学習の流れと I C T 活用例

○著名な作家の作品の歴史や背景を調べたり、題材のアイディアスケッチの参考資料とするためにデジタルコンテンツを活用したりする。

○児童・生徒や著名な作家の作品の鑑賞活動において、作品や空間を共有するために書画カメラやプレゼンテーションソフトを活用する。

○創作活動や、作品の感想や意見を共有する鑑賞活動においてロイロノートを活用する。

○風景写真や教材となるものを撮影し、資料するためにタブレット PC を活用する。

○課題や作業手順を視覚化し提示するためには書画カメラを活用する。

○プログラミング学習を実践する。



第5学年 音楽科学習指導案

1 題材名

「卒業式にむけての合唱曲・合奏曲」

2 学習計画

時	1	2・3・4 (本時)・5・6・7・8・9	10・11・12
ねらい	重なり合う音の美しさを味わって心をこめて表現しよう。		
学習内容	題材の範唱・範奏を鑑賞し、楽曲について知る。	<ul style="list-style-type: none"> 卒業式で合唱する二部合唱曲のそれぞれのパートの正しい旋律を知り、曲想を生かした歌い方ができるようにする。 6年生の入退場時に演奏するリコーダー曲の各パートの旋律を知り、曲想を生かした演奏ができるようにする。 	音楽室での合同練習や大アリーナでの練習により、重なり合う響きを感じながら心を込めて歌唱・演奏する。
I C T	楽曲データ (資料) 	<ul style="list-style-type: none"> 楽曲データ (音源) 書画カメラ デジタルコンテンツの活用  	学習感想 

3 本時 (12時間扱いの4時間目)

(1) I C T活用

学習場面	課題設定	個の思考	思考の共有	問い合わせ
学習活動	見通しをもつ		既習の知識・技能を活用する	振り返って次へつなげる
タブレット P C				 

(2) 展開

学習内容・活動	・指導のポイント ★評価
1 挨拶	・I C Tの準備
2 学習内容の確認	・前時の練習の振り返りを共有し、本時の課題を知る。
・課題を理解する。	・できないところ、改善したいところを取り出して繰り返し練習するように声をかける。
3 パート練習	・タブレット P Cに録音してある音源をスピーカーにつないで再生して練習させる。
・ソプラノ、アルトそれぞれのグループで、パート練習をする。	★正しい音程、リズムで歌っている。
・間違いややすい箇所はくり返し練習する。	
・意見を出し合いながら練習する。	
4 振り返り	・話し合った内容を教師に送る。
・グループで練習した具体的な内容、成果、課題を話し合う。	・今日の練習の振り返りを共有し、次時の学習へつなぐ。 <問い合わせ>
5 学習のまとめ	・次時の課題内容を共有し、次時に生かせるようにする。
・各グループの練習内容、成果、反省点をロイドノートで共有する。	